



県委託事業で復元なった井川高原のヤナギラン

目次

常識にとらわれない事業展開を＝雑感＝……P2 静岡県土木部 建設課室長 西島明信	全国都市緑化おいたフェア視察研修記……P15～17
第24回通常総会開催……P3～4 会長表彰／受賞者紹介	造園施工管理技士会だより……P18～19 誌詞 セイセイナーゼリー 二宮孝嗣 特別寄稿 会長 乗松文明
モントリオール国際モザイクカルチャー展 作品製作報告……P5～14	話題の森・編集後記……P20



静岡県土木部
建設業室長 西島明信

子供の頃の源体験で、畑の草取りがとてつもないやで、農業とか植物の世話をするとはもうないだろうと考えていました。

結婚して、子供ができて、一戸建ては買えないからせめて少し広めのバルコニー付きのをと思い、マンションを購入しました。

「退屈な」日々を過ごしていたら、妻が突然、花とか野菜とかを育てると言い出しました。

農業体験の全くない妻だから、三日坊主に終わるだろうと思つて鼻を括つていたら、あに凶らんや2年続いています。

「野菜の芽が出た。」とか、「いちごの実がついた。」と大騒ぎしていますが、食したのは茄子ぐらいで、いちごも含め他ものは大きくなれずじまいでした。

それでもめげず、「食べれなくても、このいちごは、花を愛で、楽しんでからいいのだ。」と勝手に納得して、「次はきゅうりとトマトを育ててみよう。」とか、「日除けになるからとゴールドクレストを植えよう。」とか、妻のパワーには脱帽であります。

ところで、「どこからそうしたパワーは生まれるのだろうか。」と考えてみましたが、妻の野菜づくりやガーデニングの未体験がパワーの源ではないのではという結論に達しました。

「知らない。」「やつたことがない。」「は未知の世界でありますが、新しいマーケットに繋がる可能性を秘めているのではないかと思いました。

ところで、造園を辞書で調べてみますと、「庭・公園・遊園地などを造ること」(岩波国語辞典第四版)、「石・砂・草などの材料をうまく使つて庭園などを造ること」(私のパソコンの辞書)となつています。

4年ほど前に、イギリスの田舎のあるお宅を訪れたとき、真つ先に、決して広くも立派でもないのですが、庭へ案内され、自慢話を聞かされました。

そこには、「作家」の創造性が満ち満ちていて、とても素敵なことだと思いました。

取り留めのない話しになつてしまいましたが、いわゆる公共事業のマーケットが縮小している昨今、皆様におかれましては、差別化や顧客エリアの拡大など様々な取り組みがなされているのではないと思ひますが、今までの常識にとらわれない事業展開や、素人のサポートやケアを行う新マーケットの創造もできたらすばらしいことだと思ひ、私的なことですが、感じたままを書いてみました。

最後になりましたが、造園の格付けや入札契約制度の改正の話は、どこへでも向いていくつもりですので、是非声をかけてください。

表紙説明

■ヤナギラン(アカバナ科)

表紙のヤナギランは協会が県からの受託事業で種子から養殖して植栽開花したものである。ヤナギランの種子は、粒というより粉のようだと表現した方がよいほど小さく、しかも綿毛を付けて飛散する。種子採取は、種子の入った「さや」が割れて種子が飛散する直前に行なう。その種子の取扱いも文獻はなく、綿毛と種子を分離する種子精選も不可能に近い。綿毛の付いたまま冷蔵庫に貯蔵。翌春、播種・播種方法、播種床も暗室構築で、いろいろな方法を試みた結果、ようやく大量養殖の方法が確立。ヤナギランは、アカバナ科の多年草で草丈は、一五m程度、葉の形が柳に、花がランに似ていることから命名された和名で、ランの仲間ではない。県内では静岡市井川、県民の森の一角、山伏(二〇一三)に県下最大の群落がある。この人工植栽によるヤナギランのお花畑が一般公開される日も近い。



第二十四回通常総会開催

第二十四回通常総会を去る四月二十八日、静岡県ブヶエ海静岡において、加藤正国土交通省静岡国道事務所副所長、花岡志郎環境森林部長、顧問の植田徹県議会議員をはじめ、国、県、静岡市、浜松市、関係団体等多数の臨席を得て盛大に開催した。

十三年度のオランダフロリアード二〇〇二花と緑の祭典視察研修等盛りだくさんの事業報告及び収支決算、翌年度に浜名湖花博を控えての十五年度の多彩な事業計画と予算案などすべての議案が原案どおり承認可決され、十五年度のスタートを切った。

総会は、小林白二総務企画委員長長の司会で進行。渡井公平副会長長の開会のあと、西野勢作会長が「公共事業の削減経費の縮減等厳しさが増すなか極端な

価格競争がおこり、熟練工が力を発揮する機会さえなくなりつつある。

一方、浜名湖花博の成否は前売入場券の販売如何にかかっている。その収益で

あいさつの西野会長

直接受注するのは我々業界である。尚一層の販売努力をお願いしたい」と浜名湖花博成功へ向けて力強くあいさつ。

議事に先立ち、協会表彰要領に基づくと会長表彰



祝辞の花岡環境森林部長

環境保全対策、花咲く井川高原復活業務、西天城高原植栽調査業務(財)静岡国際園芸博覧会からの韓国安眠島国際化の博覧会屋内出張業務等々盛りだくさんの業務報告とこれに伴う六千八百万円余の決算が承認された。

第二号議案では、浜名湖花博への出席をはじめ、屋上緑化・壁面緑化技術の研究開発、研修講習会の実施、各種委託業務の受託、NEW!!わかふじ団体に対する協賛節花、パソコン講習会の実施等々積極的な事業計画と実行のための予算六千八百万円余が原案どおり承認された。

来賓の方々からは、花岡志郎環境森林部長、顧問の植田徹県議会議員、財団法人静岡国際園芸博覧会協会村松靖則専務理事の三方からそれぞれの立場で祝辞をいただいた。

第一号議案では、緑化技術講習会の開催、建設CALS/FCセミナーの開催、オランダ「フロリアード二〇〇二花と緑の祭典」二〇〇二韓国安眠島国際花の博覧会「長嶋温泉湯あみの島」等の視察研修、ふじのくに「フラワー&ガーデニングフェア二〇〇三in沼津」への出席(財)静岡県グリーンバンクからの土壌調査、設計、県からの自然環

「会員並びに会員の代表者」「会員の従業員」を行った後、来賓祝辞をいただき議案の審議に入った。

「普通会費が高」という提案があ



祝辞の村松 静岡国際園芸博覧会協会専務理事

り、総務企画委員会、理事会で検討する旨回答し、すべての議案が原案どおり承認された。

総会終了後は、会場を変えて、環境森林部長 本間康弘総室長の乾杯の発声で懇談会にうつり、近年順に薄くなったお互いの情報交換がこの時はばかりはと熱心に行われ、午後一時半すべてを終了した。

会長表彰

（会員又はその代表者）

（株）杉山造園 杉山 守

（株）静山園（株） 坂本大輔

（株）八ヶ代造園 八ヶ代幸一



会員表彰を受ける三氏

（会員の従業員）

みどり園（株） 高須恒次

（株）岳陽グリーン 三浦忠勝

（株）土屋造園土木 土屋喜成



従業員表彰を受ける三氏

受賞者紹介

平成十五年度優秀施工者国土交通大臣顕彰の栄誉に、西野造園株式会社 山本昭氏が輝き、去る五月二十日、霞ヶ関の文部科学省 虎ノ門ホールで国土交通大臣から顕彰された。おめでとうございます。



山本昭氏は昭和四十九年に（株）西野造園に入社、職長、工事課長等歴任して現在、工事部長の要職にある。

その間、静岡中央図書館植栽工事、静岡大学教育学部教育実践研究指導センター植栽工事、静岡駅前広場植栽工事、駿府公園修景園整備工事、駿府公園茶庭工事等を現場代理人、主任技術者等として活躍された。

特に平成十三年十一月に開園した駿府公園内「紅葉山庭園」築造では、工事事務所長として、また、安全協議会会長としてその力量をいかんなく発揮し、見事に完成させた功績が高く評価されている。

樹木余話

■ジャカランダ

（ウツセミカスラ科）

南米原産のウツセミカスラ科に属する常緑広葉樹。原産地では高さ十五メートルほどに生長する高木。葉はネムノキに似て、実に涼しげ。樹冠一面に上品な紫色の花を葉と同時に六、七頭開く。世界中の無霜地帯では庭園樹、公園樹とし幅広く利用されているが寒さには弱い。国内ではあまりなじみはないが、「二〇〇〇年シドニーオリンピックのマラソングエスの街路樹で放映され一躍有名になった。

県内では静岡市広馬町の宝寿寺に三百年生位のものがあり毎年開花して市民の目を惹きつけている。熱海市はガルトガルのカスカイ市との国際姉都市植栽記念としてお宮の松の隣に植栽しており、現在樹高五mほどに生長し、毎年開花している。

来年開催される浜名湖花博では世界三大花木の一つとして植栽される。来場者の目を惹きつけてくれるでしょう。



モントリオール国際モザイク ルチャー展作品製作報告

(財)静岡国際園芸博覧会協会からの依頼で、モザイクルチャー展の作品製作スタッフを募集したところ、定員以上の応募があり、一社に遠慮いたदैて、(株)八ヶ代造園の衛藤徹雄さんを団長に、(有)小林立園の小林千尋さん、木下造園(株)の木下光宣さん、(株)西野造園の西野初彦さん、(株)片桐造園建設の和田典久さん、(株)庭仁の源美仁志さんの六名がカナダ・モントリオールで五月二十日から一ヶ月間モザイクルチャーの作品製作に取り組んだ。



製作メンバーの皆さん

左から小林さん、西野さん、源美さん、木下さん、衛藤さん、和田さん

モントリオール到着後、仕事に取りかかると渡航前と話しが全く違う、工具の準備等まるで請負業と同じだと造園緑化協会にメールが入るなど慣れない外国での作業に御苦労も多かったようだが、参加者のリポート、事務所とのメールのやりとりなど初めての事業として記録に残すため全文を掲載します。

Mosaiculture International Montreal 2003

モザイクルチャー展の概要

2003年6月20日から10月6日までの間、カナダのモントリオールで国際モザイクルチャー展覧会が開催されています。モザイクルチャーとは簡単に言えばワイヤメッシュを用いて彫刻のように造形した像(sculpture)を園芸(horticulture)的手法で装飾した芸術作品であると言えます。実際には、丸鋼径3~6mm、凡そ縦15cm横20cm格子のワイヤメッシュを溶接しながら曲げ加工して目的の像を作り、その中に軽量人工土壌を突き固めるように詰め込みながらテキスタイル(寒冷紗)でワイヤメッシュ像を覆う。その時、ワイヤメッシュにテキスタイルを留めるにはタイラップという長さ15cmほどのプラスチック製留め具を使います。そして、その像に特殊工具を使って穴を開け、彩り豊かで、葉が密生し、刈込みに耐える植物のプラグ苗(大きさが3cmから数cmのポット栽培苗)を差し込むようにして植付けて完成となります。今回の展覧会では、神話と伝説をテーマに世界35ヶ国から70以上の都市や団体が参加し、作品製作の腕を競いあい、豪華で独創的で不思議な作品を作り出し12ヘクタールの会場に展示している。一步会場に足を踏み入れると、今までに経験したことのないすばらしい幻想的な世界に迷い込んだ感覚に陥ることになります。

モザイクルチャー作品のあるものは10m以上の高さにな

モントリオール 国際モザイクルチャー展に参加して

株式会社 八ヶ代造園 衛藤徹雄

静岡国際博覧会協会がカナダのモントリオールで催される国際モザイクルチャー展に出展するにあたり、静岡県造園緑化協会会員の従業員6人が展示作品の製作をするために、2003年5月21日から6月20日までの期間で参加しました。そのメンバーの一員として1ヶ月間現地で作品製作に携わりましたので、ここに報告書を作成し提出いたします。



完成作品



植込み作業

会のブースは出展番号が6と若い番号なので入場口に近く、周囲を通路に囲まれ、内側の旧運河に面し(メイン会場はこの運河を取り囲むように設定されている)、絶好の背景をもったポジションにあります。ブースは方形で面積は約250㎡あり、出展ブースの中では面積が広いほうで、京都市や広島市に比べると4から5倍の広さの展示場所が与えられています。出展ブースは56㎡から1150㎡までの70区画が用意されており、それぞれの出展作品に合わせて割当てられています。

園芸博協会の周囲には、イタリアのチュリン、ルーマニアのブレスト、ロシアのモスクワ、京都市、モロッコのマラケシュ等の魅力あふれる出展作品が多く、また力作ぞろいです。そのチュリンの作品は天上の二輪車を駆る人、ブレストの作品は羊飼いの悲恋、モスクワの作品はマトリョーシカ、マラケシュは青い鳥の伝説です。園芸博協会以外の日本の出展をみると、京都市の出展作品は祇園祭で、唐草模様の山鉦を鮮やかな彩の植物で細やかに飾りつけて豪華に仕上がっています。園芸博協会ブースから少し離れたところに展示されている広島市の作品は世界平和で、原爆ドームを模した屋根に濃い緑の植物に覆われた平和の鐘が吊り下げられ、その鐘には世界の五大大陸が平和を祈念して刻み込まれています。

京都市、広島市ともに展示作品は、主催者の現地スタッ



フランスのアンジュ出展の作品 まるで絵画のよう

る巨大で華麗な人の像であり、またあるものは見るも鮮やかな色彩の植物のコートを着た動物の像であり、多種多様な造形美と多彩な色彩をもつ植物が織り成す錦絵のような装飾に魅了されずにはおれない作品ぞろいです。そして61個のブースに展示された新しい世代のモザイカルチ



本部出展のコブラ

ャー作品は、必ず見る者を驚かせ、目を見晴らせ、感動をあたえてくれると思います。

モントリオールでは、過去2回のモザイカルチャー展で130万以上の人の目を楽しませていますが、今回は展示会場をさらに広くし、今までのデザインを徹底的に見直すことによって、よりすばらしいイベントになるよう企画されています。過去にモントリオールで開催されたなかで最高の国際モザイカルチャー展覧会になることは疑いもないことで、主催者側では100万人の来場者を見こんでいるようです。

開場時間は9時から夕暮れまで、入場料は大人12カナダドル、子供(6才から11才)5カナダドル、幼児無料となっています。

世界各国の都市及び団体の展示について

日本からは、静岡国際園芸博覧会協会(以後園芸博協会とする)、京都市と広島市が出展しています。園芸博協



ベルギー出展作品

園芸博協会出展作品について

園芸博協会の出展作品は、浜松の幸運をもたらす風(The Lucky Kites of Hamamatsu)と銘うたれているが、力感あふれる魅力的な感動大作です。大きな風、大きな波と富士山を目玉にして、静岡の豊かであるが雄雄しい大自然と勇壮で名高い浜松の伝統的凧上げ祭りを表現しています。作品はいろんな角度からその良さを見ることができ、運河の水を背景に聳え立ち、頂きに白銀の残雪を有する富士山は絶景といえる。雄大だが静かなたたずまいの富士山に豊かで落ち着いた静岡の自然美(日本の自然美の代表とも言える)を称賛するモンリオールの人は少なくなかった。その富士山の背後からまさに驚いからんかのように造られた大きな波は、サイトで作品作りに勤しむ世界各都市の多くの参加者に津波(世界共通語となっている)を連想させ、躍動感あふれる力強い作品に仕上がりました。

園芸博協会ブースの中でひととき異彩を放っているのが大凧です。高さおよそ4m、幅3m、厚さ0.3mの大きな壁のような凧に勧進帳武蔵坊弁慶の浮世絵風役者絵が描かれており、いかにも海外の人々が好みそうな日本文化の一端を表現している。9種類の色の植物を使い分け、顔の中の細い線にも丹念に小さな植物の苗を挿え付けてできあ



パリ出展作品

りの製作によるものです。

アジアからは、韓国釜山市、中国上海市(2006年国際モザイクカルチャー展の開催予定地となっている)、中国北京市、中国クンミン、マレーシア、インドニューデリーが参加しているが、中国上海市は3年後の開催を控えているためか広いブースの中に特に力を入れた豪華で大きな作品を出展しています。釜山市ブースでは、派遣された5人(うち1人は市職員)が作品製作をしていましたが、釜山市以外のアジアの都市については主催者の現地スタッフによって作品が製作されているようでした。

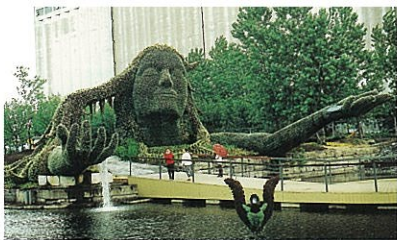
釜山市の作品は韓国太鼓、上海市は多色石の伝説、北京市は万里の長城、クンミンはしゃれた帽子、マレーシア



運河を利用したフランス・カオール市の出展作品

はトラ、ニューデリーはブッダと7人の弟子とそれぞれの国や都市の特色を表現した色彩あふれるものです。

アジア以外の出展都市と団体を紹介しますと、当事者の国でもあるカナダのモンリオール、トロント、ニューブルンズウィック、オタワ、ケベック、カナダ政府、ケベック州政府、フランスのバリ、アンジェ、Chaniers、カオール、ナントのFloralties Committee、メス、デザイン、リオン、イタリアのローマ、チュリン、ジェノア、ベルギーのエイノー、Chent Floralties、ギリシャのアテネ、ルーマニアのブカレスト、オランダ、イギリス、スペインのバルセロナ、スイスのジュネーブ、オーストリアのウィーン、ロシアのモスクワ、トルコのイスタンブール、エジプト、モロッコのマラケシュ、マリのBamako、アラブ首長国連邦のドバイ、ベナン人民共和国のCotonou、ギニア共和国のコナクリ、アメリカ合衆国のボストン、メキシコのモンテレー、ブラジルのリオデジャネイロ、ペルーのナスカ、アルゼンチンのブエノスアイレス、チリのイースター島、オーストラリアです。



本部出展の作品

有効に利用したものや運河そのものを展示場として利用したものもあります。あまり広くない展示会場の中で作品にあった場所をうまく探しだし、作品と環境を上手に融合させようとしている主催者の努力を感じます。ワイヤメッシュ枠で造られた像は全て主催者スタッフによってあらかじめ作製されていたようですが、像の大小を問わず造形の妙と溶接技術の確かさに感銘を受けました。

園芸博協会出展の大鳳はたて3.9m、横2.8m、高さ0.3m、大波は高さ3.0m、幅7.5m、奥行き3.2m、小波は高さ1.2m、幅3.0m、奥行き1.5m、白波は高さ0.5m～1.0m、幅3.0m、奥行き1.5m、富士山は、高さ1.5m、長径7.0m、短径6.0m、山頂の直径は0.6mの大きさと製作しています。

ワイヤメッシュ枠で造られた大鳳は直線的な箱型ではなく、風が風を受けて大空に舞い上がったかのように外側にゆるくふくらんで造られています。また、大波と小波はいまにも興いかかってくるような鋭い動きのある、見る者すべてに津波の恐怖を引き起こさせる迫真的な造形美をもっています。いづれも原因に忠実な表現ながらもそれをはるかに上回ったすばらしい出来映えの造形物として仕上がっています。この像の製作者の鋭い感性、豊かな表現力と確かな職人芸が詰め込まれている芸術作品です。

すべての作品の内部には人工土壌がぎゅうぎゅうに詰め込まれており、人工土壌の表面はテキスタイルでしっかりと固定されている。大鳳を除いて、作品の土台部(芯にあたる部分)には山砂が使われ、その上に人工土壌を20cmの厚さで貼り付けている。現場合わせて設計した富士山の製作には特に注意をして作業を行った。まず、50cm程度の高さで山砂で最初の土台をつくり、表面をシャベルや手で均しながら押さえた後テキスタイルを貼り付けて固定する。さらにその土台の上に同じような作業を2回繰り返し、地上から150cmの高さで峰の部分をつくり、テキスタイルを貼り付けて固定し富士山の土台が完成。その土台に人工土壌を20cmの厚さで盛り付けていき、ふわふわした人工

がった武蔵坊弁慶には驚きと称賛の声が多い。

園芸博協会ブースで作品を作っている我々には多数のメディアが取材にきました。日本人が初めてモザイカルチャー製作に挑戦というニュース性があったのかもしれないが、とにかく大勢の人の注目を浴びたことは確かだ。我々が製作している作品が富士山、海、波、風上げという日本を象徴する風景で、モントリオールの人たちをはじめ欧米の人たちにとって異質の文化を感じさせたことにも要因がありそうだ。日本に興味や好意を持っている人が多いため我々にはいつも親切で友好的で優しく接してくれる。有名なモントリオール植物園(JARDIN BOTANIQUE DE MONTREAL)には広大な日本庭園があり、家庭の庭にはギボウシがたくさん植えられており、市内には寿司レストランが多く大勢の人が好んで寿司を食べていることからモントリオールの人たちは親日的で日本文化(ギボウシや寿司だけが日本文化というわけではない)に関心が強いと感じられます。

園芸博協会展示作品製作方法について

作品製作は5月22日から6月16日までの期間で行い、延作業日数は23日、延作業人数は118人となりました。

園芸博協会の展示ブースは、縦18.2m横13.8mの長方形で、ほぼ平坦な場所にあります。その中に大鳳、大波、小波、白波、遠州灘と富士山が作りこまれています。あらかじめワイヤメッシュ枠で造られた像だけ用意されていた作品は、大鳳、大波と小波の3つで、他は参加メンバーが現場に合わせてフリーハンドで絵を描き、ハンドメイドで作り上げた作品です。

他の参加都市の展示ブースをみると、広さも形状もまちまちで、だいたい平坦な地形にありますが中には斜面を



セダムの一種(ベンケイソウ科)

きさがそろっていないものについては若干の植栽間隔の変更を行っています。

植栽間隔は4種類あり、広いものから15cm、10cm、7.5cm、5cmです。

使用した植物は、ヒユ科アルターナンセラ属(テランセラ属) *Alternanthera* sp. 'Verte a petites feuilles'、アブラナ科ロブラリア属 *Alyssum* 'Snow Drift'、シソ科コリウス属



ヒポエステス(キツネノゴマ科)

Coleus x 'Or des Pyrenees'、*Scaevola* sp. 'Blue Wonder'、キク科ムギワラギク属 *Helichrysum petiolaris* 'Mini Silver'、*Hemigraphis repanda*、ベンケイソウ科マンネングサ属 *Sedum linearis*、キツネノゴマ科ヒポエステス属 *Hypoestes rosea*、ヒユ科アルターナンセラ属 'Rouge a petites feuilles'、*Calibracoea terracotta*、ベンケイソウ科エケベリア属 *Echeveria desmitiana* 'Glaucua'、ヒユ科アルターナンセラ属 *Alternanthera* sp. 'Niagara Falls'、キツネノゴマ科ヒポエステス属 *Hypoestes white*です。

富士山には *Alternanthera* sp. 'Verte a petites feuilles' を9,316本、白雪には *Alyssum* 'Snow Drift' を747本、富士山の麓には *Coleus* x 'Or des pyrenees' を2,147本、白波には *Helichrysum petiolaris* を5,250本、青い海には *Scaevola* sp. 'Blue Wonder' を6,533本、大風には *Hemigraphis repanda* を2,200本、*Sedum linearis* を1,218本、*Alternanthera* sp. 'Verte a petites feuilles' を2,016本、*Hypoestes rosea* を1,260本、*Alternanthera* sp. 'Rouge a petites feuilles' を874本、*Calibracoea terracotta* を546本、*Echeveria desmitiana* 'Glaucua' を210本、*Alternanthera* sp. 'Niagara Falls' を1,680本、*Hypoestes white* を1,316本の合計35,383本です。

土壌を手で押さえ付けて均しながら山の稜線や峰の形をきれいに整えた後テキスタイルで覆い、ピンでしっかりと固定して富士山の像が完成。白波も富士山と同じ方法で作製し、中田島砂丘に打ち寄せる遠州灘の波を表現した。ここで使用する人工土壌とはピートモス、コンポスト、シュリンブを混合したものをいい、さらに現場でコーティング肥料(緩効性高酸化肥料)と水を追加混合し、適度の栄養分と湿気を併せ持った理想的な軽量土壌です。

植物を植付ける前までの作業、つまり作品の像すべてに人工土壌を詰め込んでテキスタイルを貼り付けて完成させるのに、延作業日数15日、延作業人数77人がかかりました。

植物を植付ける前に、乾燥しきった人工土壌が適度の湿気を含むように像にたっぷりと灌水します。ブース内のイリゲーションはポップアップ式スプリンクラーの自動灌水方式となっていますが、植付ける場所だけに重点的に灌水したいためにホースを使っての手動灌水としました。空気が乾燥しているので人工土壌は乾きやすいためか、像に詰め込むときに充分湿らせたはずなのに10日間で過乾燥の状態になっていました。

長さ30cmほどの特殊な工具を使って、像の表面のテキスタイルを突き刺して植え穴(基本的には直径が約3cm、深さが7~8cm程度)をつくります。植え穴は植物の種類や苗の大きさによって、穴と穴の間隔や穴の大きさが少しずつ異なります。

植物は13種類を使用しましたが、春先のモントリオールの気候が悪かったために苗の成育の差が甚だしく、種類によっては規格外のものが多かった。それぞれ植物の種類ごとに苗の大きさと植栽間隔が決められていますが、苗の大



広島市出展作品



高所作業に臨む小林さんと西野さん

んでいました。中には途中経過のものも数点ありましたが、現場担当の方々の説明が英語と仏語だったため、詳細はうまく質問できませんでした。

アントロボもMIM(モザイカルチャー事務局)も材料置き場も、ロッカールームを除いた全てが古い工場を借りたものに少々の手を加えて使用していました。リユースなのでしよう、会場の骨格を雰囲気造っている意味深いものに思えました。そのため、高さ十メートルほどの空中回廊(何かを建物から建物へ運ぶもの?)は今にも崩れそうでしたが、全く使われてもいないのに存在感をより一層感じさせるのでした。現在、何かを造るという行為は、生活においても安くて安価に作る事ができる物ばかりがクローズアップされがちですが、日本も新しいことを始める場合には特に、古いものを残すことへの価値を見出さなければと感じました。

さて、サイトに着いてまず驚いた事、それはビッグウェーブの骨組みだけしか無かった事です。言葉はわからなくても、見た目で土入れからつまり一番最初の部分から託されたことはわかります。説明や責任者の話は英語が主流ですが、実際の作業の殆どは仏語…抗議や質問など複雑な内容で会話ができず、とにもかくにも浜松チームとして現場を進めなければ、開会までに仕上げなければならない。特に二週間で人数が二人減ってしまうことによって完成が遅れることを想像し、毎日必死で作業をしました。

骨組みは専門チームが設計図をもとに作成しますので、それらをサイトに設置することから始まります。土台を埋め込む為に五十センチほど深さを掘り、固定します。その後土より上の部分の骨組み(フレーム)に芯には砂を、砂を覆うように植物の根の入る厚みで土を、全て手作業で押し込んでいきます。押し込みながら、網目の細かいネットを「タイラー」と呼ばれるプラスチックの黒い用具で固定し、包み

モザイカルチャー製作に参加して

(有)小林造園 小林千尋

初めてのモントリオールは、五時だというのに明るく、陽がかなりまぶしかったです。出迎えてくださった日本語のできるルーシーさんとゴダインさんの大きな握手が印象的で、到着までにかかった時間と税関ごとに繰り返される何やらの得ない質問の数々に緊張していた私は、とてもほっとしました。簡単な自己紹介(初対面の場合必ず全員交わします)と、仏語が生活の八割ということ、気温は北海道くらい、天気は数日後には悪くなるなどの話をしました。その晩は、ファミリーレストラン風の店に現地側のスタッフを合わせて総勢十人での会食。機内で得た豆知識によると田舎風豆スープが古くからある料理と出ていたのですが…早速「まずい」という仏語を学びました。

私たちの生活したマクギル大学寮は、モントリオール山を登ったところにあり窓からはダウンタウンのビル群と現場のあるセントローレンス川までもが見渡すことができました。もちろん夜景はきれいでしたが、なにか買おうとしても店までの高低差がかなりあったので、車を借りるまでは水を調達するのもにも困っていました。そして、階段、手摺り、天井、ドアなどなにもかもがカナダサイズで、我々ははからずもスローライフを強いられました。どこへ行くにも大きくそしてたくさん歩く、少なくとも生活においては早く早くと急かされる事はありませんでした。

次の日から早速現場服に着替え、安全靴(必須でした)を購入し、午後には浜松チームのサイトに向かいました。アントロボと呼ばれる倉庫では、今回のモザイカルチャーで使われるであろう作品の一部が植栽までを終えた形で並



波の躯体製作に取り組む西野さん



製作完了の躯体に植え込みを行なう

りて様々な話ができたと楽しく、また言葉をもっと理解できるようにしたいと心底思いました。

今回の参加は、海外での園芸イベントに対する考え方や関わり方、完成までの流れを勉強するためのものでしたが、考えていたよりもたくさんを感じたものになりました。通常の海外旅行と違い仕事を与えられていたため、現地にて生活レベルから仕事レベルまでの広い視野を持つ事ができた事。たくさんの外国の方たちと、挨拶にとどまらず専門的なことまで含めて様々な会話を楽しまれたこと。知識や意見の交流までには至らなかったものの、寮生活の中でたくさんの知り合いができたこと。中でも日本に持ち帰ることができたように感じているのは、同業者であるにも関わらず今まで話す機会がなかった世代を越えた浜松チーム参加者たちとの時間です。これも日本では実現しない事のように思います。それぞれが日本での自分の生活や仕事を置いて来ているから実現したのではないのでしょうか。是非、海外における今回のような研修の機会を若い人たちに与えてあげて欲しいです。会社同士が競争し、勝ち残っていくだけが目的では、文化的観点ですばらしいものは生まれませんし、日本という枠や、時代を超えていけないように思います。海外に行くと初めてわかる日本の良さや、文化の大事さがあります。自分自身を模索しているときに異文化や様々な人々との交流を介すことは造園に限らずこれからの日本を考える上でとても意味深いものになるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、静岡県造園緑化協会の皆様をはじめ静岡県浜名湖花博関係者の方々、MIMI関係者の方々、そして今回の研修で関わった全てのみなさま、本当にありがとうございました。完成を見る事ができなかったのは残念で仕方ありませんが、このような機会に恵まれた事に心より感謝いたします。

ます。高さ3メートル以上もある巨大な波は線の美しいフォルムだったため、サイトを通る人たちが口々に「ビューティフル」と言ってくれましたが、全体として見ると人の手を逆さにした形なので、内側には下から背伸びしてネットを張り、同時に上から土を押し込む作業が必要で丁度降ってきた大粒の雨に泥だらけになって泣いたこともあり。大風は土台を埋める時点で現地がフラットに出来上がっていませんでした（外国の現場ではよくあるようです）設置工としては頼んでから作業にとりかかるまでに何日もかかったと記憶しています。足場を組んで下から土を込めると、また足場を足すので相当な高さの場所で作業をしました。最後の細かいネットの張り合わせは女性陣が担当したので日本では有り得ない高所作業を経験してしまいました。スコップ、ネコ、バケツなど毎日使う作業用ツールは、朝現場でお願いして持ってきてもらうので、時に何時間もかかり、言葉が通じない分、作業のスピードを上げなくてはならず、苦労しました。富士山に関しては大型の機械類が通るたび、運転手に声をかけ身振り手振りで彼らの作業の合間に土入れを頼むので遅々として進まず、チームの皆が「段取りがなっていない」「日本では監督業失格だ」と言い合うシーンもありました。



躯体製作の様子

毎朝、寮の食堂で朝7時～8時までが朝食、夜の7時～8時までが夕食。ランチは現場にボナベティ=いただきますという名のランチボックスが配られ、毎食各国の参加チームと共に食事をしました。全体の顔ぶれを見て女性の割合が少なかったためか、皆さんよく話し掛けてくださいました。特に同じ階の同姓の方々とは会話をたくさんしました。たくさんの大学寮の中で私たちの棟はガーデナーホールと呼ばれ、モザイカルチャーの参加者たちが主に滞在していました。ホーティカルチャー（園芸）関係者同士身振り手振

鮮やかである。

一見、遠目で見るとトピアリーに似ているが近くで見ると植物の細かい植え込みに驚くであろう。モザイクチャーはトピアリーにはない色鮮やかで繊細な細かさを持っている。これはまさに彫刻と園芸の融合のなした形である。しかし相当な労力と管理がかかる。

自分自身思うのが手間を省きたがる一般日本にモザイクチャーが普及するかは疑問を感じた点であるがイベント・式典などでは大いに目を引くオブジェになることは間違いないだろう。

モザイクチャー製作にあたっての注意点

- ①鉄のフレームをリアルに製作する。
- ②フレームに張るネットはたるみの無いようにしっかりと張り結束バンドと定める。
- ③ネットの中に入れるパークは手で入念に押し込みネットがしっかりと張っているか確認すること。30cmぐらいネットを張り次にパークをいれ作成していく。
- ④植物の植え込みはネットに穴をあけしっかりと押し込む。

以上の点を気をつければ誰にでもできる作業だが植え付ける植物の選択、配植がしっかり出来ないと台無しになってしまう。植物の選択、配植、生産者の確保の打ち合わせが十分に必要である。

植え付けて完成というものではないので維持、管理がとても重要なポイントになってくる。水やり、剪定にはかなりの労力がある。灌水装置は必要不可欠になると思われる。

植え付け3ヶ月後が植物も落ち着き見栄えるので開催期間が短い場合には前もって製作しておいた方がよりいい物を見てもらうことができる。

花博のキャラクターもモザイクチャーで是非つくってみたい。

日本人初のモザイクチャー体験ということでとても貴重な体験ができ、素敵な人たちと出会い、素晴らしい国カナダで充実した生活を送れたことを県造園緑化協会、花博協会の皆様から感謝します。

ぜひ、これからもっと海外に出るチャンスを若手に呼びかけ、外国の現場の雰囲気、外国人と交流を肌で感じてほしいと思います。

PS 衛藤リーダーがいなかったらまだ現場が終わってなかったかもしれませんね。(笑)

MOSAICULTURES

(株)片桐造園建設 和田典久

私が1ヶ月カナダでの作業で感じたことは、花を植栽するよりも基礎を作成することが重要でした。

鋼鉄フレームに肥料を混ぜた土を詰めながらネットを張るという繰り返しの作業の中で、「しっかり土を詰めなければ花が植栽できない」と現地スタッフに言われ、手本を頭思い浮かべながら、作業を行いました。

研修を終え、自分自身が感じたことは、多種多様な花やフレームを使う事により、数多くのオブジェを作成することができるので素晴らしい、土を詰める作業に手間と時間がかかる分、細かく丁寧な植栽ができる為、仕上がりはとてもきれいになると思いました。

この様な技法は初めて目の当たりにしましたが、フレームさえできれば日本でも以外に流行るのでは!?と思いました。

長いようであつという間の1ヶ月でしたが、大変実のある1ヶ月間でした。またこのモザイクチャーを作るのであれば、是非製作したいと思っています。



ようやく完成、思わず笑みが

モザイクチャー報告書

(株)庭仁 瀧美仁志

今回、自分自身が海外に行くことが始めてということで緊張した中、とても貴重な体験が出来たことに花博協会と県造園緑化協会の皆様に大変感謝しています。

モザイクチャーを体験し、感じたことは彫刻と園芸のコラボレーションということで土台となる鉄のフレームがかなりリアルに作られており、植物も数多くの種類を使い色



内部から噴霧する灌水

ので心配はありません。

それでは皆様よろしくお伝えください。Au revoir (good bye)

●2003年5月31日

こちらは雨が

多いので困っています。作業がなかなか、はかどりません。日本の梅雨のような天気です。みんな合羽をきて泥だらけになって頑張っています。時間が不規則なので、こちらでレンタカーを借りました。朝早く出かけて夕方遅くまで作業をする為に必要でした。必要経費でお願いします。

みんな、怪我、病気、事故もなく元気です。ランチボックス(お昼の弁当)の量が多いのには、閉口していますがそれでも、衛藤と瀧美と和田は残さず食べています。少し太り気味なのがこわいです。

SARSについては、モントリオールの人達はぜんぜん気にしていないようです。テレビを見ていないのでよくわかりません。

●2003年6月2日

「モザイクチャー・インターナショナル・モントリオール2003」のミニレポートを送ります。

私たちは、最後の10日間で仕事を捗らせることにしました。今は3つのスカulptチャーの中に堅い混合土壌を詰め終わりました。

1番目が大波(高さ2.8m、幅4.6m)

2番目が大嵐(高さ3.9m、幅4.6m)

3番目が中波(高さ1.5m、幅2.5m)

それから、混合土壌を使って富士山とその外のものを作らなければなりません。富士山は高さ約2m、底辺の長径が7.5m、短径が6mで、山頂の直径が0.6mです。

混合土壌をスカulptチャーに詰め込み終えたあと、スカulptチャーの表面にたくさんの小さな植物を植え付けます。これらの仕事を終えるためには、多くの人手と日数が必要だと思います。また我々は、自分たちの道具や機械を持っていません。

しかし、やってみます。現場の中は、すべてのスケジュールがとても遅れているように見受けられます。

●2003年6月6日

レンタカーは大変役にたっています。ありがとうございます。銀行には忙しくていけません。市内に両替をしてくれる所があります。レートも高いようです。

こちらでは天気が回復してきました。それでも朝は少し冷え込みますので寒いです。しかし、日中は暑くなり半袖でもよさそうです。

モザイクチャーの作業も急ピッチで進んできました。浜松チームは、6月9日から植物の苗を植え付けることになりそうです。MIMのコーディネーターからも出来栄が良いと言われていました。昨日はカナダテレビが浜松チームの撮影にきました。かなり評判が良さそうです。

カナダからのメール

●2003年5月25日

モントリオールについて5日が過ぎましたが、モザイクチャーのメンバーは元気になっています。ミネアポリスで入国審査に少し問題がでしたが、何とか乗り継ぎができて、モントリオール空港に到着できました。しかし、ここでも入国審査に時間がかりましたが、無事入国でき一安心でした。迎えは、日本語の話せるルーシーさん(コーディネーター)と、アシスタントのゴードインさんが来ており、バスで大学の寄宿舎まで送ってもらいました。寄宿舎はガーデナーホールといいます。個室で冷蔵庫とタンスと机とベッドがついています。割と快適です。

翌日は、午前中にサイト(現場)の説明、午後から作業を始めました。サイトはとても土埃が多く不安全な所です。細かい手作業が多いので、苦勞しています。少しずつ慣れてきています。我々は手伝いと思って来ましたが、話が違い、すべて日本人が自ら進めることになっています。現場での指導及び手伝いの人が2名いますが、我々の力で完成させなければならぬようです。時間が足りないと考えられますが、とにかく皆で力を合わせて作業を進めます。

園芸博覧会協会の水口さんにその件を確認していただけますか?いまのところメンバーに故障者はいません。トロントで「SARS」が再発生したようですが、我々はトロントメンバーと同じ所に住んでいますし食事と一緒にしています。詳しい情報が知りたいです。

今日の報告はこれまでにします。今日は、日曜日で我々は休みます。

●2003年5月28日

「SARS」の情報をありがとうございます。モントリオールではあまり心配していないようです。ケベック洲(モントリオール)にはまだSARSが発生していないからです。みんな元気に作業をしています。こちらに慣れてきたのでフランス語の勉強を毎日やっています。かなり上手くなったようですがカナダの人にはあまり通じていないようです。



本部出展作品の植え込み作業

今日ひとつが(sculpture)完成しました。まだまだたくさんのsculptureを作り上げなければなりませんが大丈夫と思います。

みんなで、飲み会(drinking time)を楽しんでいます。チームワークがとれています。今日作業を指導してくれている若い21歳のカナダの学生と一緒に飲みに行く約束をしました。金曜日には実現しそうです。

楽しく仕事をしています

始まりました。雲母さんと杉本さんもその他の参加者と一緒に参加しましたが、狭いテントの中に200人の招待者がいて寿司詰め状態でした。おまけに外は雨が降っていたので、中はひどい混雑で、食べ物を取ることができず、ワインばかり飲む始末でした。おかげで昼間から少し酔っ払い状態でした。午後6時からパーティーがありますので寝てしまいます。

ちなみに、セレモニーとパーティーは現場(モザイクチャーター)で行なわれています。たくさんの方が長い演説をするので閉口しましたが一部の人は、先に食べ物を取っていました。

ケベックシティはとても興味深い場所でしたが、モントリオールから往復で6時間かかりましたので、少し疲れました。

浜松チームはみんな元気で帰国できると思います。大切な仕事が終わったので気が抜けたようです。帰国してからの仕事に支障がかなりでそうで心配です。

●2003年6月22日

昨日(6月21日)夕、カナダから帰国しました。

庭仁の渥美さんは、アメリカ ニュージャージーに1週間滞在してから帰国しますが、西野初夏さんと和田さんは無事一緒に帰国しました。同じ飛行機便で園芸博協会の雲母次長と杉本さんも帰ってきました。成田での第一印象は、なんと蒸し暑いことかでした。でも長い空の旅は非常に疲れましたが、フランス語からやっと開放されたかと思うと、ほっとすると同時にさびしい気持ちになりました。何かやりのこしたことがモントリオールにまだあるのではないかと、あれで良かったのだろうか、むこうでお話になった大勢の人に別れの挨拶が十分でなかったかと反省することが次々に湧き出てきます。

県造協の事務局の方には大変お世話になりました。特に熊沢さんには、E-Mailで日本の情報を報告していただき感謝しています。

まったく日本語と接する機会がないので、唯一の楽しみは、日本語の着信メールを見ることでした。カナダ モントリオールでは最初フランス語がまったくわからないことや英語も万全ではなかったこと、通訳の方もいなかったのずいぶん苦労しました。そんなときには日本語の着信メールがなんとうれしかったことか、今思うと精神的にずいぶんと助けてもらったと有難く思っています。

皆様の心温かい援助とモントリオールの人達のやさしさ・寛容さ・友情にささえられて、なんとか仕事をやり終えることができましたことをモザイクチャーターチーム全員を代表して御礼を申し上げます。

我々にとってもまた日本の造園業界にとってもまったく未知の新しい技術にいち早く接することが出来たことは、光栄でありまた誇りでもあります。報告書にまともな関係の皆様へ早くご披露しなければと考えておりますが、時差ぼけもありすぐには報告書が書けそうにありません。少し時間をいただきたいと考えています。

それでは、失礼します。

追伸 日本語でメールができる喜びをかみめています。

衛藤 徹雄

6月4日、小林さんと木下さんが帰国しました。2週間、2人は頑張りました。2人のお蔭でずいぶん作業はかどりました。2人にあったら宜しく伝えてください。

残った4人も頑張って作業に取り組んでいますので、安心してください。

西野さんは、フランス語がすごく上手くなりました。ノートを片手にパリからきた人に生のフランス語を教えてください。

みんな元気です。



園芸博協会出展の一部タコの完成

●2003年6月10日

今朝、植込込みを始まりました。しかし、充分な植物がないので捗りません。土曜日までにはは終らせたいと思っています。

こちらでの支払はカードですので現金の心配は必要ありません。ご心配ありがとうございました。

残された日数で仕事を終るようにみんなで頑張っています。皆さんによろしく。

●2003年6月17日

メールをありがとう。わたし達は元気です。モザイクチャーター・インターナショナル・モントリオール2003の私達の仕事は終わりました。昨日1日中雲母さんと杉本さんが、私達の仕事を終らせるために手伝ってくれました。今朝は穏やかで気持ちがいいです。

私は、これからマクギル大学宿舎の後ろにあるロイヤルマウンテンの周りを、歩きに行きます。今日はゆっくりとした時間をもちたいです。

17,18日はカナダでの休日を楽しむ予定です。15日(日曜日)は最後の踏ん張りと思い、疲れた身体に鞭打ち作業をしました。その甲斐あって16日(月曜日)には、全作業を終らせることができました。

昨夜は「さくら」(日本レストラン)で、打ち上げを行ないました。もちろん園芸博協会協会の雲母さんと杉本さんとボランティアの原川さんにも参加していただき、楽しいディナーでした。18日にはケベックシティに行く予定です。ユネスコの世界遺産に登録されている古い城壁のある街です。

19日は、オープニングパーティーに招待されています。一緒に頑張った世界の都市のメンバーが一同に集まります。楽しい時を過ごせると思います。

●2003年6月20日

今日(6月19日)は、オープニングセレモニーが午前11時から

全国都市緑化おおいたフェア 視察研修記

第二十回全国都市緑化フェアが四月二十八日から六月二十九日までの六十三日間、大分市で開催され、来年、浜松市での開催を控え、十二名で視察研修を行った。

会場は、ワールドサツカーでにぎわったビッグアイのある「大分スポーツ公園」と、佐野植物公園の二会場に分かれ、我々造園業界と関係の深い企業出展の庭園は「大分スポーツ公園」に「一〇四庭園」が出展され、規模、内容、技術の高さに視察者全員が圧倒された。それは、吉田町で開催した「しずおか緑花祭」の比ではない。浜名湖花博へ出展する会員にとっては大きなプレッシャーとなった。

出展業者によっては、経費も記載しており、一千万円、二千万円というも展示してある。工期も二、三ヶ月あったという。浜名湖花博でも出展業者にしわ寄せがいかないよう十分な工期を欲しい。



浜名湖花博を宣伝する(財)静岡国際園芸博覧会協会庭園

また、大分駅からは無料のシャトルバスが運行され、その距離も十五キロメートル位はあろう。しずおか緑花祭では有料のバス運行が不評を買ったが、浜名湖花博では、入場券の割高感をなくすために無料にしてもらいたいものだ。会期中の入場者は、目標百万人に対して九十万人であった。

『おおいた緑、香り夢フェスタ03』見聞記

(株)大松園 渡井公平

浜名湖でのしずおか国際園芸博覧会を来年に控えて、私達県造協と造園施工管理技士会有志で「第二十回全国都市緑化おおいたフェア」を駆け足で見学して感じたことは、先ず第一に有料の大分スポーツ公園はサッカーワールドカップ後の施設の立地条件を有効に利用しており、その名の通り「ビッグアイ」を目玉にして花の香りあふれる緑と色とりどりの花壇、各エリアの

中に学校花壇も幼稚園、小、中、高そして専門的な農大まで、数多くの出展作品があり子供連日の目線で作られた可愛らしいものや、環境問題を考えたりサイクル利用の作品等々幅広く大勢の生徒さん達の力作が地味な作りではあるが目を惹きつけてくれている。

出展各団体毎に工夫が凝らされたデザインが多様さに県民全体で見事に作り上げられた緑の祭典らしさが随所に見受けられた。

自治体花壇も限られたスペー



壁面に立つ芝生のアーチに植え込まれた多肉植物の緑縁

スを巧みに生かした展示をされていた。中でも浜松市の浜松の過去と未来を映す花の庭は浜名湖花博のアピールも取り入れて人目を引いていたように思う。

地元九州各県の「九州花景色」は九州の地形を表し神話の世界から遺跡、名所を配し実にうまく九州の特色を演出している。すばらしかった。

見てまわってきた中でも特に目を引いた展示は、企業コーナーとして百余りの日本庭園の見事な作りである。二ヶ月間の展示では撤去してしまうにはあ



最優秀賞に輝いた浜松市出展庭園

まりにももったいない。大分県の造園職人の気概のこもった寸分の手抜きもない、職人の腕の見せ所はここだとばかりに「時間」をかけ「材料」「労力」を惜しみなくかけてあり、どの庭も実に見事な仕上がり振りに一同感嘆の声を上げた。この点は私達も大いに学ばなければならないと思った。

もう一方の会場、佐野植物公園は公園の中の芝生広場を利用したの花「花のオンパレード」であり、入場無料で大分駅からの無料バス(両会場とも)が運行されており大勢の家族連れの子供で

賑わっていた。この会場は植物公園だけあって緑は豊富で、隣に大型の芥焼却施設があることなど感じさせない環境の中にあがり、六つのテーマゾーンに特色を持った彩り鮮やかな中に多くの新品種を集めてすっきりしたデザインにまとまりを見え見事に

管理された園路を嫌になつたような気分であつて緑は豊富で、隣に大型の芥焼却施設があることなど感じさせない環境の中にあがり、六つのテーマゾーンに特色を持った彩り鮮やかな中に多くの新品種を集めてすっきりしたデザインにまとまりを見え見事に

研修会に参加して

会場全体を見渡せる高台から各所を廻り見学させていただきました。

草花はきれいなものがたくさん使用されていて、良く手入れされ、会期中の植え替え管理も大変な事と想像いたします。私達が知らない見たことのない新種の草花がたくさん使用されていきました。こうした草花について少しづつでも勉強して、自分達の庭造りに生かしていきたいと思ひ、近くに資料があつたらと感しました。



両側は企業出展庭園

庭園は良い材料を十分に使用して、細かいところまで配慮



国土交通大臣賞に輝いた「四季の庭園」

名古屋で「のぞみ」に乗り換

え、九州には往前に、緑化フェア会場「大分スポーツ公園」には二時過ぎに到着する。平日という感じが、お客はポツリポツリ少し淋しい感じだ。ゲートをくぐると元気な声で「いらっしゃいませ」といふ顔で、これはいいですね、疲れがとれる感じ。会場内を係員の方に案内して頂き見学するが、これといつて代わり映えない「自治体花壇、エコ、新商品、etc.」ところが「豊の国自彰苑」に入るとたん全員の顔つきが変わりました。一同に力が入っている

大分緑化フェアに参加して

(株)八ヶ代造園 村松正基

観て納得、季節ごとに変つた表情を見せる、樹木の花、実、紅葉などを絵や、写真などを使って紹介したらどうでしょう。ドングリについて、ミズナラ、コナラ、クヌギ、シラカシ、又、木

の肌が似ているもの、花の似ているものなど、特徴をとらえて紹介したらどうかと思います。休憩所は各所に配置されていきました。木陰を使つた場所がほしいですが限りがあると思ひます。会場全体を考慮したい良のものを設置してほしいです。いろいろとお世話いただきました。ありがとうございます。



仏の里園東・千の岩万の岩(二十万円)

な！、静岡じゃ無理だ！、勝てないよーと、二ヶ月間の出展にすごい意気込みだと感心するのと同じきりでした。

二日目は「佐野植物公園へ朝一番目の入場です。なんだかホッとする雰囲気を感じる。のんびり、ほかほかして感じかな何足だろう？全体の配置がいいのか、色使いがいいのか、私なりに思ったことは、野菜ではないか、花壇の花に混じって野菜がいっぱい植わっているんです。おいしそー!!、お腹にうったえていたのではないですか？。



支柱のない竹林（短期展示のため深植）

おおい緑、香り、夢ファエスタ3を見て、第一印象、感動しました。大分スポーツ公園と佐野植物公園の二会場に分かれています。二会場共既存施設を最大限に利用している、まず大分スポーツ公園会場はビュックアイをシンボルとして、ゆつたりとした空間に各作品がゾーンごとに配分されている洋風庭園、花壇庭園は花と緑の色彩が豊かでデザインも地域の特徴が多

大分緑化フェア視察研修に参加して

岡沙庭園企画社 岡村 泰

多くの作品に出会いました。特に感激したのは、企業出展の各作品です。これが一ヶ月間のみの作品かと思われ、地元某社の庭園作品です。大きな地の景石をふんだんに使い、又、植栽にしても変化の有る大きな木、樹種を多様に、既に数年を経た庭園かと思われる作品が多く作者の心意気をよく感じ取れました。又、一作一作の広さと地割の取り方に変化が有り主催者



県内市町村出展による豊の国花景色

側の配慮がいいですね。佐野植物公園会場は焼却場とゴミの埋め立て地を利用して作られた植物園で温室、遊具、芝生広場、樹木等々を応用しての展示場で既存木をメインとしてその廻りを寄せ植え花壇、又は園内路沿いに境花壇と人目を引き付ける様は素晴らしい計画ですね。この会場のテーマとして、エコガーデンでは、野菜類、ハーブ類、水生植物類、そして色取り取りの花類をふんだんに使った多彩な展示花壇、及び池など見る物が豊富でした。

二会場共、ゆつたりとした気分で見ることが出来るし、休憩箇所が多いのでいいですね。いつも、この様なフェアを見ても庭園作品ばかりに目が行って、その他の催し物を見る時間がないのが少々残念でした。又、

いつも写真で記憶をと思い、見るのはそっちのけ、しかし今回の視察では多くの作品を目でしっかり見ておこうと思いい写真を余り写さなかつたんですが、時が過ぎればもう記憶にない。そんな中、西野会長の撮ったビデオを送って頂き本当に有り難うございました、参考にさせていただきます。

又、川崎専務、お疲れ様でした、本当に楽しんで三日間を送らせていただきありがとうございました。



企業出展ゾーンゲイト

造園施工管理技士会だより

第十八回通常総会開催

静岡県造園施工管理技士会(兼松文男会長、会員一七九名の総会が六月三十日、静岡市のブエ東海静岡で開催され、事業報告と決算、事業計画と予算案、役員改正案等すべて原案とあり承認可決された。総会終了後、浜名湖花博「ワールドガーデンユニオン・ペティション」テクニカルディレクターの二宮孝嗣氏による記念講演を開催。会員の他一般の方も熱心に聴講した。



あいさつの乗松会長

在をアピールしなればならない。来年はいよいよ浜名湖花博が開催される。吉田で開催されたしずおか緑花祭同様、ポランテアガイドの要請が来ている。この総会で承認し、

総会は、望月敦彦副会長の司会と進行し、源平太中部支部長の開会の辞で開会。開会に当たり乗松会長は「建設業登録における経営審査の中で技術者は重要視されるようになってきた。我々の技術者を評価してもらうために、も併せて、その存

にでも出来ないプロ集団としてのガイドをやるうではないか」とあいさつ。
議事は、会長を議長に選出して進められ、第一号議案・平成十四年度の記念講演会開

催、造園施工管理技士受験対策講習会、第四回緑花文化の知識認定試験の実施等の事業実績と二七〇万円余の決算、第二号議案、研修講習会の実施、造園施工管理技士受験対策講習会の実施、緑花文化の知識認定試験の受託実施、浜名湖花博のボランティアガイド等の事業計画とその予算案三二〇万円を原案とあり承認。

第四号議案では二年に一度の役員改選で、中部支部で大井利雄理事から大石春夫理事に変更になったのみで残り全員再任となった。新役員別掲のとおり

園芸博覧会協会に対する技士会の色々な支援協力に感謝と今後の事業展開と協力のお願いがあった。
最後に小林百二副会長から閉会の辞ですべてを終了し、記念講演へと移った。

〔新役員紹介〕

常任理事

会長 兼松文男(株キヤブ)

副会長 小林百二(有小林造園)

望月敦彦(野園芸株)

水野 豊(天龍造園建設株)

東部支部長

吉岡愛策(有吉園)

中部支部長

源平 太(源平造園建設株)

西部支部長

川口慎二(田旗造園建設株)

理事

下山謙一(天城造園株)

植松静夫(株植造園建設)

渡辺 豊(株富士見園)

大森貞信(有翠光園)

大石誠三郎(株岳陽グリーン)

安本昌弘(株建設株)

大石春夫(有大石造園)

柴山則行(株東海フオレスト)

斎藤敏雄(株ハケ代造園)

水井慎吾(有水井造園)

監事 中野孝三(株愛樹園)
和田泰英(有まど造園土木株)
岡本 正(株植園)
渥美仁郎(株庭仁)
〔新入正会員紹介〕
大石哲也(株岳陽グリーン)
増田哲幸(株岳陽グリーン)
森一延(有森荘造園)
鈴木 毅
堀井克芳(株片桐造園建設)
寺田祐一(有昭花園)
河合有(株キヤブ)
塚本明寿(株庭明)



祝辞の秋田事務局長

〔新入賛助会員紹介〕
〔有森荘造園〕



浜名湖花博の現状報告に聞き入る会員

森の話題

協会では、本年も(財)公園緑地管理財団からの委託を受けて「第五回 緑・花文化の知識認定試験」を行います。この試験は造園施工管理技士のような資格を取得するものではありませんが、緑・花に関する知識を深めることにより、人生を豊かに生き、来る浜名湖花博を見るのも一層楽しくなり、造園・園芸の営業にも役立つものと思われれます。昨年の受験者は全国で九二〇〇人、静岡県は二九〇人、過去三回特選に認定された者に送られる「緑・花文化」も静岡県で一人誕生しました。県内の本年の受験申込者は七月末現在一三名となっており、会員各位、関係者の受験をお待ちしております。

あなたの、
木や花の知識、
どのくらい。

緑・花試験
グリーン・フラワー



第5回 木と花のともだちになろう 緑・花文化の知識認定試験 試験日：平成15年11月9日(日)

- 申込期間/平成15年7月1日(火)～平成15年9月19日(金)
- 受験資格/資格は問いません ●受験料/2,900円 ●試験地/全国40都市
- 申込書請求及び問い合わせ先 〒106-0001 東京都港区虎ノ門4-1-21 日本第2ビル3階 財団法人公園緑地管理財団「緑・花文化の知識認定試験」事務局
- TEL:03-3431-6876 FAX:03-3436-4548

申し込み・申し込み書請求先 <http://midorihana.prj.or.jp> (Eメール) <http://midorihana.prj.or.jp/> (ホームページ)



知れば知るほど花の不思議

緑・花文化の知識認定試験 受験要領

- 試験日時
平成15年11月9日(日)
午後2時～午後3時10分(試験時間70分)
- 申込受付期間
平成15年7月1日(火)～平成15年9月19日(金)
- 受験資格/資格は問いません。
- 受験料/2,900円
- 試験地/全国40都市
静岡県では、静岡市(県立静岡農業高等学校)と浜松市
- 受験申込書の請求/FAXで
(社)静岡県造園緑化協会へ
FAX (054) 251-9205

またまた、発行が遅れ、夏号といひながら、立秋も過ぎ、残暑お見舞いの季節となつてしまひました。協会としても浜名湖花博をはじめいろいろな行事が目白押しです。会員各位の協力をお願いいたします。九月二日はブケ東海静岡において、カナダでのモザイクカルチャー製作に一月も長期にわたつて取り組んでいただいた藤原麻理さんら六名の報告会を開催します。多数の賜答をお待ちしております。

お知らせ
浜名湖花博会場まで余すところ七月、前売り入場券二割引期間も九月末日とせまつてきました。(財)静岡県園芸博覧会事務局は、入場券数五〇〇万枚、前売りは入場券販売三〇〇万枚を目標に販売促進に力を入れているが、七月末の前売り入場券販売実績は四〇〇程度、我々の協会は、一瓦、懸命な努力をしているが、七月末現在、財団法人と同様四〇〇%の六、〇〇〇枚にとどまっています。目標枚数を達成できるかどうかは、二割引きの期限である九月末日までにかつております。会員各位の積極的な購入をお願いいたします。購入分をストックしておいて本年暮れのお歳暮、来年のお中元のビール券わりに是非、浜名湖花博入場券を。

編集後記
またまた、発行が遅れ、夏号といひながら、立秋も過ぎ、残暑お見舞いの季節となつてしまひました。協会としても浜名湖花博をはじめいろいろな行事が目白押しです。会員各位の協力をお願いいたします。九月二日はブケ東海静岡において、カナダでのモザイクカルチャー製作に一月も長期にわたつて取り組んでいただいた藤原麻理さんら六名の報告会を開催します。多数の賜答をお待ちしております。